

LPガス問題大きく前進！ 北海道地方石油液化ガス意見懇談会開催される

8月31日、「北海道地方石油ガス意見懇談会」が開催され、LPガス問題が前進しましたのでご報告いたします。

当日は全体で39名の参加があり、経産省からはWG「報告書」執筆者の高野課長補佐、LPガス問題中央審議会の座長橘川先生の参加、行政からは経産局2名、道3名、札幌市2名、LP業界より5名、消費者側7名の参加で懇談会は開催されました。また、今年は報道関係者と傍聴者の参加が多数ありました。

懇談会の総合的な評価は、「昨年の、のりくりのやり取りから大きく前進」経産省と北海道LPガス協会から、具体的な発言がありました。また、橘川先生から適宜発言があり、まとめでは「改革への課題と行政・業界・消費者への示唆がありました。」この発言が、討議の整理と会議を引き締まったものになりました。

内容は経産省から、「ガイドラインは年内に出すこと」「過剰投資とLPガス価格への転嫁が事実としてあると」発言がありました。道LPガス協会会長からは、「ガイドラインが出されたら守ること」「ホームページでの情報公開を進める」との発言がありました。

経産省と道LPガス協会から具体的な発言を引き出したことは、この間の消費者運動の成果と評価できます。また、道連から提起した「LPガス改革を北海道から始めませんか」の提起は、翌日LPガス振興センター、道庁、経産局、LPガス協会、マスコミ、ホクネット・消費者協会などから感想を聞き取りしたところ、「事態を曖昧にするのではなく、LPガス販売改革を進めなければいけないとの、雰囲気全体がなったとの共通認識でした」

最後に、橘川座長のまとめと問題提起がありました。その内容は①中央のLPガス問題審議会のメンバーから、LPガス問題を語るには、北海道の取り組みについて話を聞かないとダメだといわれて、本日来道しましたが大変参考となる取り組みやお話を聞けてよかったです。②道生協連より、流れが変わったとの発言があったが、このきっかけの一つが昨年の「LPガス問題を考える会」の調査であり、日生協連の全国調査や消団連など消費者の関心の高まりによるところが大きい。③また、北海道は道の関わりが良く、道のモニター調査や寄せられているLPガス問題の声の集約や分析は、今後のガイドライン・法律改正のバックボ

ーンとなる。④反面、道内のLPガス業界は弱い状況にある（内容は経営体質、LPガス問題の危機意識、LPガス協会のまとめなどに対する指摘との感触です。）⑤今日のLPガス問題の課題は、①透明化問題⇒ホームページによる開示、料金体系と計算基準の明示なぜ高いのか、説明が必要、説明の透明化。②過剰投資問題⇒なぜ過剰投資が発生するのか、建設会社・管理会社・大家の役割、LPガス販売会社の、被害者と加害者両面の調査分析が必要。③北海道価格、努力しても下げられないもの、努力すれば下げられるものを分けた分析が必要。

さらに、LPガス業者の課題は⇒透明化 料金システムの説明パンフの作成と顧客への訪問説明、自治体の課題は⇒北海道価格の解明、消費者の課題は⇒ホームページ等の透明化進行状態の数と内容チェック、過剰投資の要因分析の取り組みに期待します。（この間の成果を基に、もっと突っ込んで欲しい）との要望が出されました。

翌日道LPガス協会高橋専務からは、9月23日LPガス協会の理事会で、昨日の報告と今後行政・消費者団体とも色々話し合っていくことを提案する。地方支部の幹部にどれだけ理解されるか、疑問もあるが全体の流れについて提案するとのお話が聞けました。

また、LPガス振興センター嘉村専務からは、「橘川先生を招いた学習会」を企画するならば、LPガス振興センターの全国出前学習会予算の適用が出来るかもしれません、企画書を出してください」検討します。後日、LPガス振興センター野村広報部長からは、「専務の嘉村から橘川先生の学習会の件聞きました、具体化が決まりましたらお知らせください。」昨年とはLPガス振興センターの対応が変わりましたがどうしてですか（昨年は露骨にLPガス業界よりの発言・行動だった）の問いかけには「経産省の姿勢が変わりました、本気でLPガス販売改革を推進する気でいます。」このことが変わった要因です。とのお話を聞くことが出来ました。

以上、8月31日の懇談会を中心にこの間のLPガス問題の取組み報告を致しました。

油断することなく、LPガス販売の「適正価格・安定供給・安全確保」実現に向けて活動推進します。ご協力を宜しくお願い致します。

コープ
さっぽろ

第10回『食べる・たいせつフェスティバル 2016in札幌』

8月27日(出)札幌市東区つどいむにて、10回目となる『食べる・たいせつフェスティバル』を開催しました。今年には115団体に出演いただき、過去最高の73企画に及ぶ食を中心とした参加型体験プログラムを実施し、多くの子ども達が体験を通じて楽しみながら学ぶ食育イベントとなりました。

今回からは新たに地下鉄栄町駅と会場を結ぶ無料送迎シャトルバスの運行や、インフォメーション対応の強化をすることで、来場しやすく分かりやすい会場作り



に取り組み多くの親子に楽しんでいただくことが出来ました。また、トドック10周年を記念した「トドックアニバー

サリーイベント」を開催し、10歳を迎えたトドックをたくさん子ども達で祝うなど、新たな企画も実施しました。



さらには、出展者様による参加型体験プログラムの内容も回を重ねるごとに進化し、多くの来場者より、「また来年もきたい」との多くの声をいただくことが出来ました。地域の皆さまとの協力で開催出来ることに大変感謝しています。

今後とも皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

来場者 7490名 支援者数 989名

コープくらしの
助け合いの会

記憶に残る「全道交流会 in 帯広」



とき：2016年9月10日(出)

ところ：十勝川温泉 『ホテル大平原 エトワール』

参加人数：37名

稀にみる台風により甚大な被害を受けた十勝地方。今回は帯広地区での開催でしたので、交通手段が高速道路のみとなり、全道からの参加も危ぶまれましたが予定者全員が参加し無事終了することが出来ました。

道連専務理事・山口様からは、今回の災害がもたらした地元に対する思いと「会」に対する期待のことばを頂きました。外崎地区本部長からは地区事務局の電話対応に対するお褒めの言葉を頂き、またトドック担

当者が被災地周りを行い、利用者に不足物資の配布を迅速に行った経緯を聞き、胸が熱くなりました。

地域包括支援センター 帯広市社会福祉協議会 係長の金井正樹氏を講師に「認知症・介護予防について」を講演していただき理解を深めることが出来ました。休憩時間には、現在組合員活動で推し進めている“ゆる元体操”のさわりを小林雅子地区理事の元行い体をほぐし、テーブルトークで「わたしの健康法」を話し合いました。どれも認知予防に繋がる健康法ばかりであちらこちらでうなずき合ってる姿が見られました。

交流会終了後は、懇親会で和気あいあいとゲーム、ビンゴ、カラオケと楽しい時間を過ごし、モール温泉につかり次の活動へと鋭気を養いました。次回は小樽で開催予定です。



第9回福祉問題の総合化を考える委員会報告

8月26日 第9回福祉問題の総合化を考える会委員会を開催しました。相内座長の挨拶の後、報告事項は、①異世代ホームシェア事業の現況報告(松本・村田店長) ②コープさっぽろ取り組み報告(渡辺部長) ③カコタム活動報告(高橋理事長) ④あさひかわ福祉

生協活動報告(遠藤専務) ⑤道連報告(山口専務)が行われました。討議事項は、山口専務より、健康応援「ガン検診」キャンペーンについて提案し、検討を行いました。